

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10¹⁸m 1 2 3 4 5

始



43/16
686

田村 内卷之一ノ貳

此曲前半ハオホムネ朗カニ謡ヒ後半ハ確リト謡フベシ

役別

ワキ

旅僧

ワキツレ二人

從僧

季

三月

後シテ

坂上田村麿

類別

二番目

(勝修羅)

履

京都洛東清水寺

裝束附

ワキ

角帽子

着附無地熨斗目

水衣

緞子腰帶

扇

ワキツレ二人

持

又ハ大口僧ニモ

前シテ

面慈童

(童子ニモ)

黒頭

黒地鉢巻

水衣

縫入腰帶

襟浅黄赤,類

童扇指入

萩幕持

後シテ

面平太(今若ニモ)

黒垂

梨打鳥帽子

白鉢巻

着附段厚板唐

織半切

法被

縫紋腰帶

襟浅黄縹色,類

太刀

修羅

扇持

次才二段「鄙志輕略」ト抑ヘテ謡ヒ出シ返シヨリサラリト名乗ハサラリト道行
ハ前ノ氣ヲ受ケテ謡ヒ出シ「處も多方や音羽山」ト切ノ前闇メル心懶乃響
毛髪ある」ヨリ元ヘ戻シ「清水寺より來す」此返シ聞メル心ニテ「玄伊和

二枚表

大正
5. 11.30
内交

一枚裏
五行

「ト此詞ハシツカリト謳フベシ
「声二段「たのけうら」トサラリト「玄蕃の名前」此サシスラリト「ふ早振」ト
下ニテ「白妙」此上歌ハ朗カニサラリト「玄の意」ト開メル心「よその山あひ」ヨ
リ元へ戻シ「氣なうれ」此返シニ開メテ謳フベシ

二枚裏
三行

三枚表
六行

「アよ足成」此詞ハカツテ謳ヒ「此方ハアタモトウトシツカリ「わたくし由
有ギズ」トサラリト謳フベシ

押畜ち清水寺」トシツカリト「昔大和國」ヨリ氣ヲ変ヘ「人の老翁あは
ト開メル心彼翁語ぞいぐく」ト下ニトリ「我ち是」ヨリ心持ヲ変ヘ「されば行家
居士」トシツカリト「まゝの檜那城までと有し」ト折ヘ「是坂乃上の田
村れ」ト柔クサラリト謳フベシ

四枚表
四行

「今モ其」此初同サラリト謳ヒ出シ「大悲の歌アホ無き」ト折ヘ「心冥
や安樂せ卑ア」ヨリ元へ戻シ「愚滅ベ」や「此返シ折ヘル心ニテ謳フベシ
「お此面白き人」トシテワキノ問答シテハシツカリトワキハサラリト「や」コ
レハ心ヲ謳ヒ出スナリ以下サラリト「ふえ惜子ベ」シツカリト「惜む事ア」や「トサ
ラリト取リ「や」一廻シヲシツカリト「玄霄一廻」シテワキ上ニテ寛リト「ぎよ千金よ
も」ト開カニ「今此時ア」ト進メル心ニテ謳フベシ

五枚裏
六行

「莫々面白の」ト地ハサラリト「さすが」ト曲ハサラリト謳ヒ出シ「頬毛
上端ハサラリト「我世の中」ヨリ朗カニ震面白の妻ベヤレト開メル心ニテ謳フシ
「實や氣乞」トロシギハ地ハサラリトシテハ柳ヘテ覺束あらる」トサラリメニ
内陣入へらを珍ひきす」ト開メテ謳フベシ中入

三枚裏
七行

「萬もまづり侍謳ハサラリト「況序経哉」誦むる」、返シ開メル心ニテ謳フベシ
「声二段「あら有能乃」ト寛タリ「觀音擁護」乃結像なむ」ト開メテ「今」ハ
行を」ト朗カニ確リト「東夷をきひらむ」ト地ハ受ケテ謳フ

「御およ君乃」ト此地ハ氣ヲカヘ「打立け」ト開メル心ニテ謳フベシ

「普天乃下」曲ハシツカリト「駒モ足なむや」ト進ム心
既ニ伊勢堵乃ぬちく」上端ハ確リ謳ヒ「引馬乃道も」ト地ハ前ヲ受ケ以下ヨド
ミナク謳フ「思ヘバ佳例あべ」ト開メル心ニテ謳フベシ

「去程」此地ハ氣ヲ變ヘ確リ謳フベシ

力ケリ

「いづる鬼神も此ノ詞ハ確リ「す」てやヨリ抑ヘル心ニテ「鈴鹿山」此下ヶハ抑
ヘテ「振放」されば「ト地ハ前」、氣ヲ受ケテ謳ヒ出シ段々進ム心「あきをみよ」シテ
ハシツカリト地ハサラリト取り「一度をあせび」ト進ム心「雨あられ」トシテ「有能」
「や」ト確リト心「誠」ヨリ元へ戻シ「是觀音志」ヨリ開メテ謳ヒ納ムベシ
長胡床 替装束

小書

五十枚表

三十枚表

二九枚表

二八枚表

二七枚表

二六枚表

二五枚表

二四枚表

二三枚表

二二枚表

二一枚表

田村

龜

鄙

玄教

路

獨

て

東

九

重

是

々

東

國

方

乃事よゑうを

うを出たる僧うゑひ。林末都と

アハ作狂よ此盡思りき。アハ

狂うもちや。狂主あうもす。春ひ

空。ガキも長用よりく。日比

震せま方や音羽山。龍の獣もか
成清妙すよ萬よきり

早朝

狂よ見ゆ都清妙守とうやドギム
是が成極の感とみてトゾとゆて妻
尋ねると思ふ。そのづくまひ手
向て成よきし地主檀現の花ぢうを
さむへやうも可た所とくびがだ悲
きへやうも可た所とくびがだ悲

のさくさく。故う此寺の地主の
櫻よちくちあら。らきがみや大慈大
悲のまう花。十惡の罪よ。三疏
十三卷。あさげ月。五傳つめよ數
清。や。お早板祚の西庭。かゆ
あわや。自ら。人よ。雪も薩モうづ
えりてウ。行き様。入機ぞと。見渡

田
林

昔大和國小鳴寺と云前より是を覽
やひへお跡門をテノア觀世音を找う
まこと極ひよ。首脳^{木合}川上
あり。人馬のえりや。と尋鬱の
て。古代ハ一人の老翁あ。アハ翁語
く。いづれ。林立是行。歎古草^{タツナ}とリ。卫
母一人の檀那とまち丈休蓋^{タラシ}を疊

きまく。トヨテ。東山^{ヒガシ}と仰りて。さびま
ざれば行歎古草といつも。見就^{ミマ}薩^{サツ}
壇^{ゴト}古^{イニ}記^{シト}。ま。檀那^{タナン}。ま。と有^リ
し。寛^{ミヤク}乃^{アス}上の田村丸^{。上吉日}。今^モ其
が^タる^シ流^ミき方^ヲ清冰^{クイシ}ア^ラウ。
ま。ね。と。手^の本^ト元^ヒ。今^モ。一^タ木^ス。梯^ミ
みち^シ書^カて。國^ガ萬^カ民^ミをも。う。

トハダハ悲乃歌子ウタ詠也。や安樂
世界より。此盤空よ示現。我が
鳥の觀世音あくも禪心。や

早野白面面白世人よまうあらわわ
よみ度。たゞ首筋前そぞの境

教く。因縁有りあつて。金事久
義アリ。ワキ

先萬よ薦て塔堅乃

すてはめや斯前よまう。あき
え手れ中山清圓寺。今熊野を

みまく。ワキ

まよ當つて入骨の
あきさうをやまう。ワキ

梵人音羽の聲あり。かくも月

のカスカ。此地より様よつる色

先々是松屋へ。すこあさき

見うそで那うきばことあきまふ

一時、立候事べ。ロキト、サマベトや

翌入、雲霄一割價多金。花よ清雪。月よ

翠竹。月入金多ぐべトや。今

此時うや。苔と面白の地主。華の

動くや。桜つてたまよも月の

き。あら、此處の後、花とつまえてちうや。
かある候。ヤハ、さうあみむ。おおむね都
乃まう空をさく。附めきる。青陽の。都
陰みどり。内長風ある。音羽入院。案
自乞入。う。う。う。う。う。う。う。う。う。
難や。あ。地主。控覗つ。花ももとあり。う。
水に頼り。櫻帝が。眞か。う。う。う。う。う。

よ。あ。し。門。入。又。元。入。
 清。水。入。下。も。あ。り。や。青。柳。の。宮。も。
 枯。う。す。あ。り。た。花。桜。ま。つ。う。ほ。ひ。
 づ。く。ひ。事。も。わ。あ。て。食。用。き。數。き。者。
 明。ひ。ま。え。お。よ。う。り。や。お。き。う。ひ。事。
 や。ま。白。ひ。ち。く。や。ウ。う。や。動。色。を。
 み。か。よ。び。人。あ。み。野。ひ。其。名。い。ふ。

人。少。使。ぬ。ア。よ。が。金。も。若。え。白。雪。
 ひ。弘。と。情。ま。北。寺。よ。ゆ。方。と。免。ア。
 ぎ。ま。歸。や。う。か。カ。ま。ま。ま。ち。う。
 三。經。う。き。西。方。ミ。ト。づ。き。よ。知。れ。山。中。よ。
 あ。は。つ。あ。く。も。思。り。給。ク。秋。や。か。と。ト。
 か。ア。と。地。主。權。變。の。也。か。う。か。ア。と。ト。
 み。え。う。ぐ。く。う。か。き。く。坂。の。上。う。

田村堂元行ハモニテ月元一ラ也イテ月スもイテ内ス陣アシタガ入ヘキを
まスくスうちスよ入スきスきり内ス陣アシタガ入ヘキを
詠ハテラ釋ハラ傳トドケル也カク敵アキモト也カク桜ハラ乃ス陰カムイ
月ハラ也カク花ハナもス人ヒトもス法ハラ入ヘキ場ハラ
朱ハラ也カク月ハラ也カク也カク此ハシテ經ハラとス讀ハラ詠ハラ
聲有ハラ難ハラ乃ス所ハラ經ハラ也カク一ハラ行ハモニテ流ハラ

汝ハラ也カク生ハラ縁ハラ有ハラ様ハラ人ヒトよハラ事ハラとスかス人ヒト
哀ハラ也カク淒ハラ涌ハラ是ハラ則ハラ悲ハラ也カク悲ハラ也カク
觀ハラ音ハラ權ハラ護ハラ也カク結ハラ緣ハラ也カク也カク
あハラやスうスりスよスうスやスうスく男ハラ狗ハラ人ヒトもスそ
乃ハラ又スうスきスがスアス成ハラ人ヒトもスそスもスそ
今ハラ行ハモニテづスべきス仁玉ハラ五十一ハラ代ハラ平城ハラ
天皇ハラ也カク有ハラ塙ハラ有ハラ塙ハラ田村ハラ丸ス

上

日未

中
勢田の長橋カミタノナガハシみあらへぬを足りるや
月カク既ヤハよ伊勢路イセル入ハス山ヤマちく
馬ウマの道ミサも見るきしと。うつ色カラを
梅ウメえみ。花ハナもあ葉ハラも色カラりみて
だき紙タケをあらはな。去ハシもすえ。秋アキ
君ヒト乃ナ神國ジンコク。とより視音シヨンの古聲コウジン
筋スヂ力スジ神ジン力スジもほねくよまく

さう。まつともあらずマツモトモアラズとあらへ。金成キンジ
かみうさぎカミウサギせまでも思オモへ佳ヨシ御モリ
あべアベ。上アベ。古經コジよ山ヤマ下シタと動ハシく鬼キ
神ジン乃ナ毛モ。まよひ。ま地マジよ漏ハリて萬木マツクを
いざイザ。動搖ドウヨウたり。翔アゲ。いづよ鬼神キジンも惜シよ
まき。首ゲキも去ハシたゞ。ありぢかアリヂカとづひ
一年度イチニシよけ。一鬼イチキも玉位タマヘと宵ヨシ

旗入上舞手觀音力。克也教。乃
窟空よ苦行。半丸は手毎。悲
うよ禱。智惠入矣。とぞもて一度
勤め。千のや。とく。兩あ。化と
究。みく。よ。乱き脣。孔。とえ
く。え。よ。か。つ。鬼。鬼。御。御
も。付。き。よ。す。り。有。神
や。城。

復製不許



大正五年十一月廿五日 印刷
大正五年十二月一日 發行

訂著作者 觀世元滋

京都市上京區三条通麁屋町東北角

發行兼
印刷者

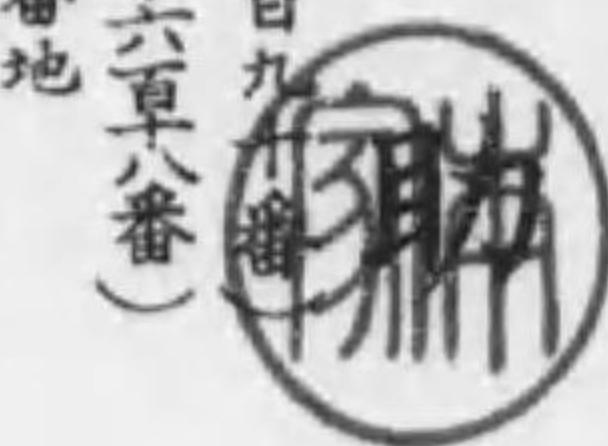
檜常之

(電話上二千九百九十九番
振替貯金大蔵三千六百八番)

印刷所

江

(電話番町八六二)



呪詛諸毒藥人乞は。觀音入ちくと
あちセテもあくち黙。著於奉人則
遂無於り人ノ敵也。七ビアキリ
是觀音恩徳力あり。

終

